

動

くこどもの

城

平成 25 年度事業案内
(巡回要領)

 **こどもの城**

(公益財団法人 児童育成協会)

KIKU.

〒150 - 0001 東京都渋谷区神宮前5 - 53 - 1

こどもの城 センター事業運営部内「動くこどもの城」事務局

TEL 03 - 3797 - 5668 / FAX 03 - 3797 - 5676

E-mail ugoku@kodomo-shiro.jp

〔こどもの城〕と〈動くこどもの城〉事業

〔こどもの城〕

〔こどもの城〕は、1979年の『国際児童年』を記念して厚生省（現：厚生労働省）が企画・建設した、「児童の心身の健全育成」をはかる総合児童センターです。1985年に開館しました。厚生労働省の委託を受けて、公益財団法人児童育成協会が運営にあたっています。

次代を担う子どもたちに、さまざまな〈あそび〉をとおして心身ともに健全に育てほしいと願って活動しています。子どもにとって〈あそび〉は、単なる“娯楽”とは違い、さまざまなことがらを体験し、身につけていく大切な場です。〈あそび〉が、子どもの“生活”そのものなのです。

〈あそび〉のなかには、子どもたちが人間として育っていくうえで身につけてほしいこと（社会性、自発性、集中力、感性、表現力など、あらゆる能力にかかわること）が、たくさんあります。子どもたちは、〈あそび〉のなかで自然にこれらの力を身につけて、育っていくのです。

〔こどもの城〕では、さまざまな分野のスタッフが、子どもの“育ち”を支える、先駆的なプログラムの開発を行い、

実践しています。「子ども活動エリア」と総称している遊び場を中心に、体育・プレイ・造形・音楽・映像科学の5つの部門と保育、小児保健、研修課（ボランティア養成部門を含む）、劇場などの関連部門が協力して、毎日、〈あそび〉のプログラムを提供しています。



〈動くこどもの城〉とは —

〔こどもの城〕では開館以来、各部門の専門性を生かした〈あそび〉のプログラムの開発・実践に力をそそいできました。これらのプログラムは、多くの来館児・者に提供され、実践をとおしてよりよいプログラムへと練り上げてきました。その間、実践しているからこそ得られる〈あそび〉のプログラムや子育てを応援するプログラムにかかわる、さまざまなノウハウを得ることもできました。

これらの知見やノウハウを、全国の児童館の仲間と共有し、より一層の児童館活動の活性化に役立てることができれば、と始められたのが〈動くこどもの城〉事業です。〈あそび〉のプログラムの企画・立案から実施にいたるまでのノウハウを各地の児童館などに紹介し、それをもとに情報を交換しあいます。

1) 〈動くこどもの城〉は、国庫補助事業「児童館巡回等支援活動事業」の通称です。

〈動くこどもの城〉のプログラム

〈動くこどもの城〉のプログラムは、〈遊びのプログラム〉を参加者を集めて実際に行う「子どもとその家族を対象とした活動」、「児童館・放課後児童クラブなどの職員・ボランティアを対象とした研修会」、そして「全国児童館おりが

み作品巡回展」の3つに分けられます。

〈遊びのプログラム〉の実践と研修会は、対象年齢や〈あそび〉のジャンルなどの希望にあわせて相談のうえ決めていきます。

1. 子どもとその家族を対象とした活動

〔こどもの城〕で行っている、子ども・親子を対象にした〈遊びのプログラム〉を集めて実際に行います。参加者の様子も含めて、プログラムの内容や運営方法などを見てもらい、児童館・児童センターなどでの活動の参考に供します。指導者研修会と組み合わせることで、より充実した内

容にすることができます。

「乳幼児とその家族を対象とした子育て支援プログラム」「幼児と学童を対象とした遊びのプログラム」「展示とワークショップ」— 対象にあわせて、さまざまな〈遊びのプログラム〉があります。

〈遊びのプログラム〉には、運動、造形、音楽、映像・科学などの専門性を生かしたプログラムのほか、人形遊びやレクリエーションゲームなどがあります。また、子育てをサポートする乳幼児親子向けのプログラムなどもあります。

●乳幼児とその家族を対象とした子育て支援●

運動遊び、音楽遊び、人形遊びなどの“ふれあい遊び”のプログラムのほか、乳幼児とその親のための“交流広場”のプログラムがあります。参加者の年齢や人数などにあわ

せて、具体的な活動内容を決めていきます。

●幼児や学童を対象とした遊び●

運動遊び、音楽遊び、映像・科学遊び、レクリエーションゲームなどがあります。幼児や学童が〈あそび〉をとおしてさまざまなものに出会い、体験をひろげていくプログラムです。

●展示とワークショップ●

展示をとおして参加意欲を高め、〈あそび〉のワークショップへといざなうプログラムです。

2. 児童館・放課後児童クラブなどの職員・ボランティアを対象とした研修会

〈遊びのプログラム〉の作り方や運営方法のポイントなどを紹介します。〔こどもの城〕の実践経験を生かした研修のほか、「子どもとその家族を対象とした活動」(実践)と組み合わせ、ときにはスタッフとして〈遊びのプログラム〉に参加してもらうなど、実際的な内容の研修会です。

●遊びの実技研修●

運動遊び、音楽遊び、造形遊び、映像・科学遊び、表現遊び、レクリエーションゲーム遊びなどの運営の実際を体験しながら研修します。児童館を拠点とした、ネットワーク作りの研修もあります。

●0歳からの子育てを行うための基礎知識●

こどもの城小児保健クリニックの管理栄養士、看護師、臨床心理士による、発達や健康管理、食育の研修会。0歳から思春期まで、対象年齢やテーマにあわせて研修内容を変えて実施します。

●児童福祉施設で活動する人のために●

放課後児童クラブや保育所でボランティアを始めようという人と、ボランティアの受け入れを考えている施設の側の両面から、ボランティアのあり方を考えます。放課後児童クラブのスタッフなどを対象とした、子ども理解のための研修会もあります。

3. 全国児童館おりがみ作品巡回展

全国の児童館・放課後児童クラブの子どもたちが作った折り紙作品を〔こどもの城〕に集めて展示したのち、全国

で巡回展示します。折り紙作品をとおして、児童館や放課後児童クラブの交流をはかります。

◆◆◆〈動くこどもの城〉派遣要綱◆◆◆

〈動くこどもの城〉は、全国の児童館・放課後児童クラブの活動が活性化することを願って行っているものです。より多くの人に利用していただくため、以下のような条件を設けさせていただいています。

■派遣の条件■

- ① 事業の主旨を理解した上で、遊びのプログラム、研修会を運営できること。子どもとその家族を対象としたプログラムは、遊びのプログラムと研修会をあわせて実施すること。
- ② 開催団体は、原則として都道府県や市町村、児童館・放課後児童クラブ、あるいは児童の健全育成や子育て両立支援のための事業を行っていること。
- ③ 単独の児童館・放課後児童クラブの催しとしても実施可能。ただし、必ず近隣の関連施設に呼びかけ、より多くの指導者が参加できる研修とすること。

■経費などの負担■

〔こどもの城〕 ○こどもの城から派遣する職員などの旅費、宿泊費、機材ほかの運搬費など
開催団体 ○参加者のための保険
○PRにかかる費用
○会場使用料などの経費ほか

※詳細についてはお問い合わせください。

■応募から実施まで■

実施希望の団体は、下記の項目を記入のうえ、FAXで〈動く

こどもの城〕事務局までお送りください(裏表紙をコピーしてお使いください)。

- ・開催団体名
- ・希望プログラムとプログラムの対象、予想人数
- ・派遣希望日時
- ・電話番号・FAX番号・メールアドレス
- ・担当者名

応募いただいたものは、実施時期・開催条件・前年までの派遣状況、地域的なバランスなどを考慮し、調整のうえ回答いたします。今年度は「放課後児童クラブ」がある児童館を中心に、派遣回数のない県、地域を優先したいと考えています。

調整後に、実施の可否を回答します。実施可能な場合は正式に派遣申請をお願いします。具体的なスケジュール、プログラム内容などの詳細は、両者で協議して準備を進めていきます。

※派遣先は、希望時期ごとにある程度まとめて決定していきます。決定までお待ちする場合があります。あらかじめご了承ください。

2013年4月1日から受け付け中

■お問い合わせ・お申し込み■

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-1
こどもの城センター事業運営部内「動くこどもの城」事務局
Tel 03-3797-5668 / Fax 03-3797-5676
E-mail ugoku@kodomonono-shiro.jp
※電話・ファクスなど、おかけ間違いのないようお願いいたします。

1 子どもとその家族を 対象とした活動（プログラム＋指導者向け研修会）

乳幼児とその家族を対象とした子育て支援

運動遊び

お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ／親子のふれあい体操“1・2・3”

乳幼児親子で、一緒に体を動かし、ふれあいを楽しむ運動遊び。子どもの年齢にあわせて、室内外でできる運動や遊びを紹介します。1人でおすわりできる赤ちゃん（6・7か月～1歳）とお母さんを対象とした「お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ」と、1・2歳または2・3歳の幼児と親を対象にした「親子のふれあい体操“1・2・3”」があります。

定員は、20～30組。所要時間は約60分。指導者向け研修会は、90～120分。実技中心なので動きやすい服装で。



お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ

音楽遊び

親子いっしょに うきうき！おんがくあそび！

1人でおすわりできる赤ちゃん（6・7か月～1歳）、1・2歳、2・3歳の幼児と親が対象。親子で手遊びや歌遊びなど。子どもの年齢にあわせて、内容が変わります。

40～50分のプログラム。定員は各20～30組。指導者向け研修会は、90～120分。楽器演奏が苦手な人でも、指導できるように工夫した音楽遊びのプログラムです。

人形遊び

親子で遊ぼう！ パペットランド

1歳6か月～3歳の幼児と親を対象とした「人形を使ったふれあい遊び」、3歳以上の幼児と親を対象とした「人形を使った劇遊び」があります。身近にあるさまざまなものを人形にして

遊ぶ親子ふれあいプログラムです。

45～60分のプログラム。定員は各15～20組。指導者向けの研修会は、約150分。

交流広場

ぽかぽか広場 乳幼児と親のための交流広場

0～3歳の乳幼児と親を対象とした、出入り自由の“ふれあい広場”の実践を紹介します。“広場”のなかで行うショートプログラム——「広場」での子育て学習会、「広場」で遊ぼう、身近なものであそぼう——も紹介します。

約90分のプログラム。“広場”の実践には、研修を受講する人も参加できます。指導者向けの研修会は、約150分。



「広場」での子育て学習会(左)／「広場」で遊ぼう(中)／身近なもので遊ぼう(右)

幼児や学童を対象とした遊び

運動遊び

身近な道具でスポーツあそび／「おにごっこ」で楽しい体力づくり

3歳以上を対象とした運動遊び。新聞紙などの身近な道具を使う「身近な道具でスポーツあそび」と、『おにごっこ』で楽しい体力づくりがあります。

60～90分のプログラム。定員は20人以上。人数や場所の広

さにあわせて、プログラムを決めます。指導者向け研修会は、約120分。



身近な道具でスポーツあそび

人形遊び

みんなで遊ぼう！ パペットランド

4歳以上の幼児から小学校低学年を対象に、「人形を使ったふれあい遊び」（1歳6か月～3歳の幼児と親）と「人形を使った劇遊び」（3歳以上の幼児と親）。紙コップなど身近な素材で人

形を作り、その人形を使って“ごっこ遊び”を楽しみます。60～90分のプログラム。指導者向けの研修会は、約120分。

映像・科学遊び

アニメ・ワークショップほか

4・5歳以上を対象に、「視覚のキャンタン工作」「ぼたぼたアニメ」などの“アニメ作り”にチャレンジ。参加年齢にあわせてプログラムを進行します。所要時間・プログラム内容は要相談。

指導者向けの研修会は、90～120分。このほかにも、「写真ワークショップ」「科学あそびにチャレンジ 音のふしぎ」「こどもの城映画劇場」「みなくる工房」などのプログラムもあります。

レクリエーションゲーム

レクリエーションゲーム大会 ～忍者マスター決定戦ほか～

“ごっこ遊び”の要素を取り入れた、レクリエーションゲーム。ストーリーを設定して、身近な遊びを“修行”などに見立ててプログラムを展開。「忍者マスター決定戦」「魔法使いチャンピオンシップ」「モンスターグランプリ」の3つ。

小学生以上120～150人、所要時間は120～240分。指導

者向け研修会は150～180分。修了者10～15人は運営スタッフとして参加。



レクリエーションゲーム大会～忍者マスター決定戦～

展示とワークショップ

造形遊び

造形ワークショップ展

造形スタジオの造形遊びを紹介する、パネル・ボックスを展示。作品や制作風景を見て、作ってみようという子どもたちの意欲をかきたてます。素材の特性を生かした「素材ア・ラ・カルト」、季節行事を題材にした「こども歳時記」のほか、「紙と造

形」「竹体験ワークショップ」「音・光体験」の5コース。

パネル・ボックスの展示期間や定員・対象などは要相談。30～60分のプログラム。



造形ワークショップ展～素材ア・ラ・カルト

昔遊び

お父さんの少年時代

昭和30～40年代に、駄菓子屋などの店先にあった“おもちゃ”の展示をきっかけに、こまやめんこなどの〈昔遊び〉を体

験します。〈昔遊び〉は、開催団体のスタッフと実施。展示期間などは要相談。指導者向け研修会は、約120分。

ネットワークづくり

児童館を拠点としたネットワークづくり

児童館が、地域の子育て支援拠点として機能するための社会資源のコーディネートの方法と、ネットワーク作りを学ぶ「研修」。対象は、児童館・放課後児童クラブなどの職員、ボランティア。定員20～50人。所要時間約120分。

おもちゃの交換を中心とした「実践『とり+かえっこ』を通じたネットワークづくり」。研修を受けた開催団体のスタッフ、地域のボランティアと一緒に運営。小学生以上の子どもボランティアも20人程度必要。開催期間は半日～2日間。

その他

不思議な世界であそぼう「こども妖怪サミット」

事前に地域の〈妖怪〉を調べて、全国の〈妖怪〉とあわせて展示します。あわせて、地元の〈妖怪〉をテーマにした、街歩き

を楽しむ“妖怪ラリー”も開催します。運営の詳細については要相談。協力：水木プロダクション。

2 児童館・放課後児童クラブなどの職員・ボランティアを対象とした研修会

0歳からの子育て支援研修

講習と実技

小児保健の基礎と実際

乳幼児期から学童期・思春期の子どもの“心とからだの健康”をテーマに、管理栄養士、看護師、臨床心理士が研修。「食生活について」「応急処置と健康管理について」「発達と大人の関わりについて」。

研修で取り上げる年齢は要相談。

対象は、児童館・放課後児童クラブなどの職員、ボランティア。定員は20～50人。所要時間は、90～120分。

親子で遊べるあそびのメニュー～家庭をつなぐあそびのヒント～

児童館や保育所、子育て支援センターなどで行う、親子（幼児）対象の催しに役立つ遊びのメニューを紹介する研修会。

対象は、児童館・放課後児童クラブなどの職員、ボランティア。定員は20～50人。所要時間は、90～120分。

遊びの実技研修

映像・科学遊び

不思議な映像実験室

映画が発明される前から、動いて見える〈映像〉が作られていました。驚き盤などの“視覚がん具”の制作をとおして、〈映像〉が動いて見える仕組みや、作る楽しさやおもしろさを体験

するワークショップを紹介します。

対象は、児童館・放課後児童クラブなどの職員、ボランティア。定員20～50人。所要時間120分。

音楽遊び

音楽表現活動の実際

乳幼児や児童にとって、五感に響く音楽遊びとは何か、また児童館でできる音楽表現は何かなどを、実践を紹介しながら、体験します。

対象は、児童館・放課後児童クラブなどの職員、ボランティア。定員20～100人。所要時間90～120分。

造形遊び

造形ワークショップ

造形スタジオの造形遊びを紹介。参加者と体験制作して、それが生まれる考え方や発想法を考えます。「素材ア・ラ・カルト」「こども歳時記」「竹体験ワークショップ」「音・光体験ワーク

ショップ」「アートと遊ぼう」など。

対象は、児童館・放課後児童クラブなどの職員、ボランティア。定員20～50人。所要時間120分～。

児童福祉施設で活動する人のために

養成講座

放課後児童クラブボランティア養成講座

放課後児童クラブでのボランティア活動の可能性、対象児童の発達にかんする基礎知識などを学びます。

対象は、児童館・放課後児童クラブなどの職員、ボランティア。定員10～50人。所要時間90～120分。

保育所ボランティア養成講座

保育所でのボランティア活動の可能性、対象児童の発達にかんする基礎知識などを学びます。ボランティアを受け入れる側を対象としたものもあります。講座内容は、参加者などにあわ

せて、相談の上決めます。

対象は、保育所などの職員、ボランティア。定員10～50人。所要時間90～120分。

放課後児童クラブの職員等を対象とした研修会

子どもの発達や成長について理解を深め、放課後児童クラブの運営に必要な知識や技術を高めます。

「児童期の発達と関わり方」「ワークショップ：『遊び』を通して子どもを理解する」「実例検討会議の実践」「子どもの遊び

を支える大人の役割」の4コース。

対象は、児童館・放課後児童クラブなどの職員、ボランティア。定員10～50人。所要時間90～120分。

3 全国児童館 おりがみ作品 巡回展

平成25年度も「全国児童館おりがみ作品展」を開催します。全国の児童館や放課後児童クラブの子どもたちが作った折り紙作品を「こどもの城」に集めて展示したのちに、全国で巡回展示を行い、児童館や放課後児童クラブの交流

をはかります。募集要領は下記のとおり。

集まった作品は、平成25年11月に「こどもの城」で展示したのち、全国を巡回して展示します。作品の運搬費用などは、事務局で負担します。

全国児童館おりがみ作品展作品募集

平成25年度「全国児童館おりがみ作品展」の作品を下記の要領で募集します。

■参加対象■

児童館・放課後児童クラブ・児童センター単位で応募してください。施設を利用する子どもや保護者が協力して制作してください。

■テーマ■

平成25年度のテーマは『私たちの自然』。私たちは自然に囲まれ、自然とかわりながら生活しています。都市部、郊外、農村部、山間部、海浜部など、さまざまな生活環境のなかで暮らしていますが、みなさんが生活している周囲にはそれぞれの自然があります。児童館や放課後児童クラブのまわりの自然、自慢の自然、ちょっとかわった自然、理想や夢の自然など、みんなで相談して、すてきな折り紙作品にしあげてください。

■作品サイズ■

- 立体作品＝たて54cm×横54cm×高さ43cm以内
- 壁面作品＝たて54cm×横54cm×高さ9cm以内
- 写真作品＝壁面・立体作品と同じサイズの作品を作って、それを写真撮影したもの。B4～A3サイズで印刷できる画像データ1・2点。

■問い合わせ■

こどもの城センター事業運営部内
〈全国児童館おりがみ作品展〉事務局
TEL 03 - 3797 - 5668
FAX 03 - 3797 - 5676
E-mail ugoku@kodomonono-shiro.jp
※電話・FAX等おかけ間違いのないようお願い致します。

■募集作品■

立体作品・壁面作品あわせて25作品と写真作品。

■応募方法■

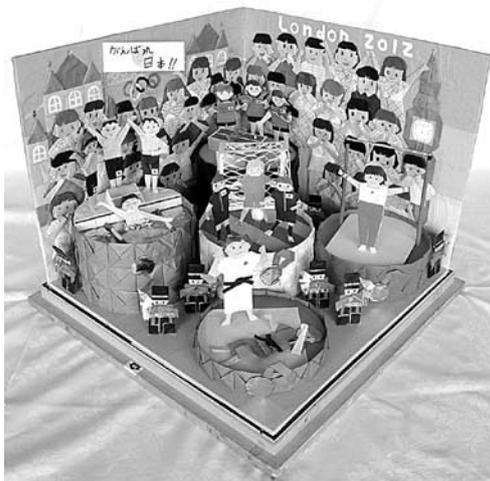
児童館名／担当者名／住所（郵便番号、電話番号、FAX番号）／メールアドレス（お持ちの方のみ）／希望作品形態（立体、壁面、写真）——を記入して、6月1～30日にこどもの城センター事業運営部内〈動くこどもの城〉事務局まで、FAX（03-3797-5676）でお申し込み下さい。応募多数の場合は抽選を行います。7月1日に決定します。

■費用■

制作に係る経費は参加館で負担してください。作品運搬に係る経費は事務局が負担します。

■その他■

作品は返却しません。平成26年6月まで全国各地の児童館などで巡回展示を開催します。展示を希望される場合は、お問い合わせください。運搬費用は事務局で負担します。



24年度テーマ「元気にスポーツ」
『ココリンビック』つくば市立九重児童館（茨城県）

応募用紙

開催団体名

.....

希望プログラム

.....

プログラムおよび研修会の対象と予想される人数

※「全国児童館おりがみ作品展」に応募する場合は、「児童館等の施設名」「郵便番号・住所」をご記入ください。

.....

派遣希望日時

※「全国児童館おりがみ作品展」に応募する場合は、「作品形態の希望（立体・壁面・写真）」をご記入ください。

.....

電話番号

.....

FAX 番号

.....

メールアドレス

.....

担当者名

.....

その他

.....